

令和 元年 6 月 20 日現在

機関番号：13901

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2018

課題番号：15KK0082

研究課題名（和文）グローバル・ガバナンス・プラットフォームの動態 グローバル政治経営学に向けて
（国際共同研究強化）研究課題名（英文）Dynamics of Global Governance Platforms: Toward a Global Political Management
(Fostering Joint International Research)

研究代表者

三浦 聡 (Miura, Satoshi)

名古屋大学・法学研究科・教授

研究者番号：10339202

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,900,000円

渡航期間： 10ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、ガバナンス論において世界的に評価の高いクリストファー・アンセル教授（カリフォルニア大学バークレー校）との国際共同研究を遂行するものであった。その成果として、アンセル教授との国際共著論文（"Can the Power of Platforms be Harnessed for Governance?" 「プラットフォームの力をガバナンスのために活用することができるか？」）を執筆した（現在、国際学術誌に投稿中）。同論文は、本研究課題の基課題に関連して執筆した論文の成果を活かしつつ、国際的にも体系的な議論が皆無なガバナンス・プラットフォームの機能と類型を論じる点で革新的である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来は経営学を中心とする学問領域ごとに個別に論じられてきた民間部門・公共部門の様々なプラットフォームを概観した上で、ガバナンスに関わるプラットフォーム（ガバナンス・プラットフォーム）につき、その中核的な論理を明らかにする点で国際的に重要な学術的意義をもつ。

本研究はまた、持続可能な開発などの様々な主体や資源の動員が必要なグローバルな課題への取り組みにガバナンス・プラットフォームが果たしうる役割と機能（主体間の交流と協働、新たなアイデアや実践のイノベーション）、およびガバナンス・プラットフォームの様々なタイプを明確にした点で、社会的な意義をもつ。

研究成果の概要（英文）： This research is based on an international collaborative research with Professor Christopher K. Ansell (University of California, Berkeley). As one of the outcomes, we wrote a paper entitled "Can the Power of Platforms be Harnessed for Governance?" and submitted it to an international academic journal. The paper discusses the functions and types of governance platforms--a concept that has not generated systematic discussions.

研究分野：国際政治学

キーワード：グローバル・ガバナンス プラットフォーム コラボレーション イノベーション

1. 研究開始当初の背景

気候変動、自然災害、水、食料、貧困、教育、人権、経済発展などの諸問題を包摂する「持続可能な開発」に見られるように、今日では各国政府をしても対処が困難な複合的社会問題が数多く存在する。世界貿易機関(WTO)や国連気候変動枠組条約(UNFCCC)などの場での政府間交渉(「多国間主義」)が停滞する一方で、政府を含む多様なステークホルダーが緩やかなネットワークを組織して共同で難問に取り組む「マルチステークホルダー・ガバナンス」がローカルからグローバルに至る様々なレベルで組織されている。このような新たなガバナンス方式の研究は、複合的問題に効果的に対処するために喫緊かつ極めて重要であると考えた。

本国際共同研究は、このようなガバナンスの社会基盤(知的・人的・物的資源の集合)を「ガバナンス・プラットフォーム」と捉え、従来(とくに一律の規制)では対処が困難な複合的社会問題への対処法の革新を「パブリック・イノベーション」とみなして、「いかなるガバナンス・プラットフォームがガバナンスのプロセスにどう作用し、それがパブリック・イノベーションにどうつながるか」を解明することを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、基課題(基盤(C)、「グローバル・ガバナンス・プラットフォームの動態 グローバル政治経営学に向けて」)の研究に基づきつつ、カリフォルニア大学バークレー校政治学部のクリストファー・K・アンセル教授との国際共同研究を通じて、学際的・学融合的な観点からガバナンス・プラットフォームの機能と動態を明らかにするものである。アンセル教授は、ガバナンス論、とくに協働ガバナンス(collaborative governance)研究とパブリック・イノベーション研究の第一人者である。本国際共同研究により、同分野の最先端の研究動向を、その中心に入り込んで直接把握しつつ、新たな研究アジェンダを設定することで、国際的な研究に積極的に貢献することを目指した。

プラットフォームとイノベーションについては、経営学や経済学だけでなく様々な学問領域で研究が進められている。本研究は、産業部門のビジネス・プラットフォームとイノベーションだけでなく、公共部門の「ガバナンス・プラットフォーム」と「パブリック・イノベーション」にも注目し、「プラットフォームに基づくイノベーション」への総合的・学融合的アプローチを採用した。また、本研究の国際的波及効果を高めるべく、共著論文を執筆し、国際的に定評のあるジャーナルにそれを投稿することを目指した。

3. 研究の方法

2017年9月から2018年7月まで、カリフォルニア大学バークレー校にて在外研究を実施し、ガバナンス・プラットフォームに関するアンセル教授との共著論文(“Can the Power of Platforms be Harnessed for Governance?”)を執筆した。同論文は、政治学、行政学、法学、経済学、経営学、社会学等の既存研究の包括的なサーベイを踏まえつつ、とくに経営学におけるビジネス・プラットフォームに関する知見を活用して、ガバナンス・プラットフォームの概念・機能・類型を体系的に論じるものである。

本研究は、複数の方法を採用する「マルチメソッド研究(multi-method research)」に基づく。すなわち、エスノグラフィーに基づく、国連グローバル・コンパクト(UNGC)の「事例内横断・縦断分析(within-case cross-sectional and longitudinal analysis)」、一次資料の読み込みに基づく複数(small-N)事例の比較研究、既存の事例研究(二次資料)の広範なサーベイ(large-N)に基づく「メタ分析(meta-analysis)」、以上の事例研究および様々な学問領域における概念的・理論的研究の読み込みに基づく、分析枠組のアブダクティブな構築(具体と抽象を繰り返し往復することによる仮説構築)である。

共著論文では、経営学の既存研究に基づき、ガバナンス・プラットフォームの機能として、「取引(transaction)」「ステークホルダー間のマッチング、情報交換、交渉」、「生産(production)」「規範やルールへの遵守・実行を通じた公共財の提供」、「イノベーション」(試行錯誤と協働学習を通じた、ガバナンスに関する革新的知識・実践の創造開発)の三領域におけるレベレッジ(槌子)の提供を、プラットフォームの中核的な機能と捉えた。そして、「取引」についてはすべてのガバナンス・プラットフォームが有する機能であることから、「生産」と「イノベーション」の機能を一方の軸として、その有無をいま一方の軸とする2×2のマトリックスを作成し、ガバナンス・プラットフォームを四つの類型に分類した。

また、以上の概念的・典型的分析を補完すべく、ローカルからグローバルに至る様々なレベルにおけるガバナンス・プラットフォームの諸事例を収集し、適宜それらの具体例を用いて抽象的議論を補完した。

4. 研究成果

本研究の成果として、上述したアンセル教授との国際共著論文を執筆した(現在、国際学術誌に投稿中)。同論文は、一方で小論「持続可能な開発のトランスナショナル・ガバナンス 権威の多元化と新たなガバナンス・モード」において示したガバナンス・モード論のうちの協働的ガバナンス論およびアーキテクチャ(プラットフォーム)論、他方でアンセル教授の「協働的ガバナンス論」および「協働プラットフォーム」論を発展させたものである。共著論文は、従来は経営学を中心とする学問領域ごとに個別に論じられてきた民間部門・公共部門の様々な

プラットフォームを概観した上で、ガバナンスに関わるプラットフォーム（ガバナンス・プラットフォーム）につき、その中核的な論理を明示した点で国際的に重要な学術的意義をもち、一定程度の国際的な波及効果を期待できる。

本研究はまた、「持続可能な開発目標(SDGs)」への取り組みが活発化するなか、様々な主体・資源の動員および様々な取り組みの革新・伝播においてガバナンス・プラットフォームが果たしうる役割と機能（主体間の交流と協働、新たなアイデアや実践のイノベーション）およびガバナンス・プラットフォームの様々な類型を明示した点で、実践的・社会的な意義をもつ。

5. 主な発表論文等 (研究代表者は下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

1. 三浦聡「持続可能な開発のトランスナショナル・ガバナンス 権威の多元化と新たなガバナンス・モード」『国際法外交雑誌』第 116 巻第 2 号、2017 年 8 月、158-188 頁。(査読有)

〔学会発表〕(計 2 件)

1. Satoshi Miura, "Global Governance Platform: The Case of the United Nations Global Compact," Annual Meeting of the Academic Council on the United Nations System, Fordham University, 16-18 June, 2016.
2. 三浦聡「グローバル・ガバナンス・プラットフォーム 国連グローバル・コンパクトのケース」国際法学会 2016 年度研究大会、静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ、2016 年 9 月 9 日 - 11 日。

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

研究協力者氏名：クリストファー・K・アンセル

ローマ字氏名：Christopher K. Ansell

所属研究機関名：カリフォルニア大学バークレー校

部局名：政治学部

職名：教授

〔その他の研究協力者〕

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。